



# Red Hat Insights 1-latest

## Advisor サービスレポートの生成

RHEL インフラストラクチャーに影響する条件に関する advisor からのレポートを共有する



## Red Hat Insights 1-latest Advisor サービスレポートの生成

---

RHEL インフラストラクチャーに影響する条件に関する advisor からのレポートを共有する

## 法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux<sup>®</sup> is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java<sup>®</sup> is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS<sup>®</sup> is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL<sup>®</sup> is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js<sup>®</sup> is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack<sup>®</sup> Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

## 概要

この advisor サービスでは、複数の方法でレポートをダウンロードして共有できます。Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、用語の置き換えは、今後の複数のリリースにわたって段階的に実施されます。詳細は、Red Hat CTO である Chris Wright のメッセージをご覧ください。

---

## 目次

第1章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX ADVISOR サービスレポートの概要 .....	3
第2章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX アドバイザーサービスのデータエクスポート .....	4
2.1. ADVISOR サービスを使用したレポートのエクスポート .....	4
2.2. API を使用した ADVISOR サービスデータのエクスポート .....	4
第3章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX アドバイザーサービスのウィークリーレポートメールサブスクリプション .....	6
3.1. ADVISOR サービス週次レポートのメールサブスクリプションの概要 .....	6
3.2. ADVISOR サービスの週次レポートメールへのサブスクライブ解除/サブスクライブ解除 .....	6
第4章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX アドバイザーサービスエグゼクティブレポート .....	8
4.1. ADVISOR サービスのエグゼクティブレポートのダウンロード .....	8
第5章 通知およびインテグレーションの有効化 .....	9
5.1. 通知を有効にするための要件 .....	9
第6章 参考資料 .....	10
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ) .....	11



## 第1章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX ADVISOR サービスレポートの概要

advisor サービスを使用すると、以下の方法で Red Hat Enterprise Linux (RHEL) インフラストラクチャーのステータスを共有できます。

- 影響を受ける RHEL システムの推奨事項を示すレポート (CSV、JSON、または YAML ファイル形式) をエクスポートおよびダウンロードし、情報をストラテジー関係者と共有します。
- advisor レポートの週次メールをサブスクライブして、RHEL 環境の正常性の概要を表示します。
- エグゼクティブレポートをダウンロードして、インフラストラクチャーのハイレベル概要をエグゼクティブオーディエンスと共有します。

これらの方法により、ユーザーやその他の関係者は迅速かつ簡単にインフラストラクチャーの健全性を評価でき、それに応じた計画や行動が可能になります。

## 第2章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX アドバイザサービスのデータエクスポート

advisor サービスを使用する場合は、登録した各システムに影響する推奨事項を示すレポート (JSON または CSV 形式) をエクスポートできます。エクスポートしたレポートには以下の情報が含まれます。

- ホスト名
- ホストのインベントリ UUID
- RHEL のバージョン
- このホストから Insights for Red Hat Enterprise Linux に最後にデータがアップロードされた日時
- ホストに影響する推奨事項のタイトル
- この推奨事項のソリューションへのリンク
- この推奨事項が直面するリスクの合計 (1 から 4 まで、1 は低リスク、4 は高リスクを意味します)
- 登録したシステムでこの推奨事項がアクティブである可能性 (1 から 4 まで、1 は可能性が低く、4 は可能性が非常に高い)
- この推奨事項の公開日
- このホストのスキャン結果へのリンク

### 2.1. ADVISOR サービスを使用したレポートのエクスポート

advisor サービスを使用してレポートをエクスポートするには、以下の手順を実行します。

1. [Operations > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、必要に応じてログインします。
2. 必要に応じてフィルターを適用して結果を絞り込みます。
3. ツールバーの検索ボックスの右側の **Download** アイコンをクリックします。
4. 希望に応じて **Export to CSV** または **Export to JSON** のいずれかを選択します。
5. ダイアログボックスで **Open with** を選択し、ファイルを開くアプリケーションを指定します。または、**Save File** をクリックして **OK** をクリックします。

### 2.2. API を使用した ADVISOR サービスデータのエクスポート

以下のいずれかの方法で、サービス API を使用してデータをエクスポートします。

- CSV ファイルタイプの場合
  - 要求 URL:  
<https://cloud.redhat.com/api/advisor/v1/export/hits.csv>
  - Curl



```
curl -X GET "https://cloud.redhat.com/api/insights/v1/export/hits.csv" -H "accept: */*"
```

- JSON ファイルタイプの場合

- 要求 URL:

- <https://cloud.redhat.com/api/advisor/v1/export/hits.json>

- Curl

```
curl -X GET "https://cloud.redhat.com/api/insights/v1/export/hits.json" -H "accept: application/json"
```

Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux の API ドキュメントは、<https://cloud.redhat.com/docs/api> から入手できます。

## 第3章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX アドバイザサービスのウィークリーレポートメールサブスクリプション

advisor サービスの週次レポートメールは環境の正常性を迅速に表示します。電子メールは有益ですがあまり目立ちません。含まれているすべての情報を一目で確認できます。

### 3.1. ADVISOR サービス週次レポートのメールサブスクリプションの概要

メールは、毎週日曜日の夜 (米国東部標準時間、UTC-05:00。東部夏時間 UTC-4:00) に、個々の Red Hat カスタマーポータルユーザーアカウントに関連するメールアドレスに送信されます。これにより、情報を得た状態で週明けを迎えることができます。advisor サービスの初回アクセス時に、Weekly Report のメールに自動的にサブスクライブされます。

メールは、アカウントに登録されているシステムに関する以下の情報を提供します。

- インフラストラクチャーにおける重要なルールヒット数
- インフラストラクチャーにおける影響を受けるシステムの数
- インフラストラクチャーに影響する推奨事項の合計数

### 3.2. ADVISOR サービスの週次レポートメールへのサブスクライブ解除/サブスクライブ解除



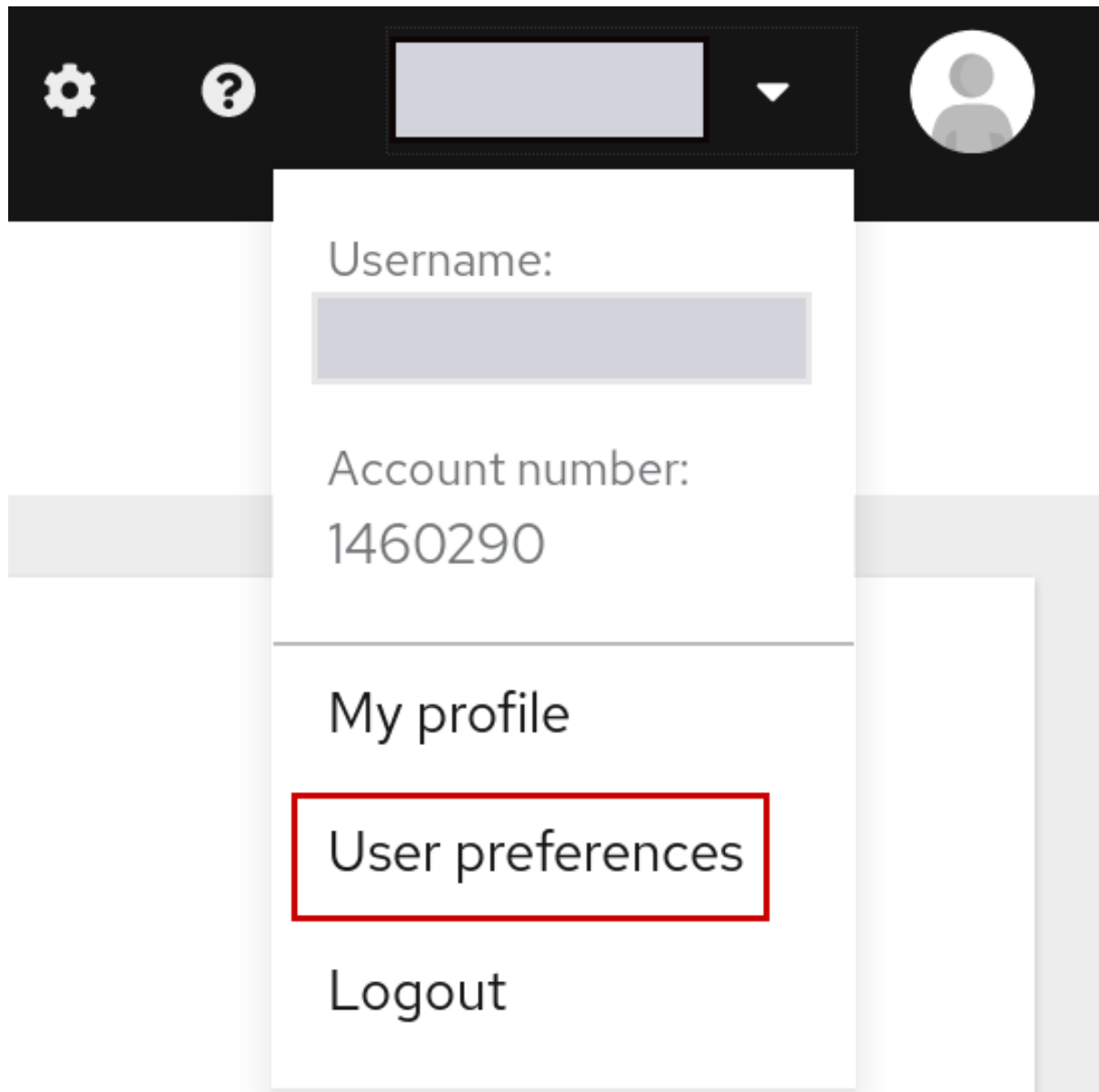
#### 注記

advisor サービスの初回アクセス時に、Weekly Report のメールに自動的にサブスクライブされます。

#### 手順

advisor の週次レポートのサブスクリプション登録または解除するには、次の手順を使用します。

1. [Operations > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、必要に応じてログインします。
2. 名前の右側にある下矢印をクリックして、**User preferences** をクリックします。



3. 必要な設定に応じて、**Email subscriptions** 見出しで、**Insights** の横にある **Weekly Report** チェックボックスを選択または選択解除します。

### Email subscriptions

Select the cloud.redhat.com emails you want to receive.

#### Insights

**Weekly Report**

Subscribe to this account's Insights Weekly Report email

4. **Submit** をクリックします。

毎週日曜日の夜に、Red Hat Insights [noreply@redhat.com](mailto:noreply@redhat.com) という送信元から **Weekly Insights summary report** という件名のメールが届きます。

## 第4章 INSIGHTS FOR RED HAT ENTERPRISE LINUX アドバイザースerviceエグゼクティブレポート

インフラストラクチャーのステータスを要約したエグゼクティブオーディエンス向けデザインのハイレベルレポートをダウンロードできます。エグゼクティブレポートとは、以下の情報を含む1～2ページのPDFファイルです。

- 重大度別に特定された推奨事項
- カテゴリー別の最近検出された推奨事項
- 最も高い合計リスクと危険にさらされるシステムの最大数に基づいた、インフラストラクチャーでの上位3件の推奨事項

### 4.1. ADVISOR サービスのエグゼクティブレポートのダウンロード

以下の手順に従って、advisor サービスからエグゼクティブレポートをダウンロードします。

#### 手順

1. [Operations > Advisor > Recommendations](#) ページに移動し、必要に応じてログインします。
2. Recommendations ページの右上にある **Download executive report** リンクをクリックします。
3. ファイルを開くか、保存するかを選択し、**OK** をクリックします。
4. ダウンロード済みの場合は、PDF ファイルのダウンロード場所を確認します。

## 第5章 通知およびインテグレーションの有効化

Red Hat Hybrid Cloud Console の通知サービスを有効にして、アドバイザーサービスが問題を検出し、推奨事項を生成するたびに通知を送信できます。通知サービスを使用すると、推奨事項を知るために Red Hat Insights for RHEL のダッシュボードで通知を繰り返し確認する必要がなくなります。

たとえば、アドバイザーサービスが推奨事項を生成するたびにメールメッセージを自動送信するように通知サービスを設定できます。

### 5.1. 通知を有効にするための要件

通知サービスを有効にするには、以下の3つの主要なステップが必要です。

- まず、組織管理者が通知管理者ロールを持つ User Access グループを作成し、そのグループにアカウントメンバーを追加します。
- 次に、通知管理者が通知サービス内のイベントの動作グループを設定します。動作グループは、通知ごとに配信方法を指定します。たとえば、動作グループは、電子メール通知をすべてのユーザーに送信するか、組織の管理者にのみ送信するかを指定できます。
- 最後に、イベントからメール通知を受信するユーザーは、各イベントの個別メールを受け取るようにユーザー設定する必要があります。

メールメッセージの送信に加え、他の方法でイベントデータを送信するように通知サービスを設定できます。

- 認証済みクライアントを使用して Red Hat Insights API にイベントデータをクエリーする。
- Webhook を使用して受信要求を受け入れるサードパーティーのアプリケーションにイベントを送信する
- Splunk などのアプリケーションと通知を統合してアドバイザーの推奨事項をアプリケーションダッシュボードにルーティングする

#### 関連情報

- [Advisor 推奨事項の通知をセットアップする方法の詳細は、Red Hat Hybrid Cloud Console での通知の設定](#) および [Red Hat Hybrid Cloud Console とサードパーティーアプリケーションのインテグレーション](#) を参照してください。

## 第6章 参考資料

このサービスの詳細は、以下のリソースを参照してください。

- [Red Hat Insights Advisor Service を使用した RHEL 設定の問題評価](#)
- [Red Hat Insights 修復ガイド](#)
- [Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux ドキュメント](#)
- [Red Hat Insights for Red Hat Enterprise Linux 製品サポートページ](#)

## RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するフィードバックをお寄せください。いただいたご要望に迅速に対応できるよう、できるだけ詳細にご記入ください。

### 前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにログインしている。

### 手順

フィードバックを送信するには、以下の手順を実施します。

1. [Create Issue](#) にアクセスします。
2. **Summary** テキストボックスに、問題または機能拡張に関する説明を入力します。
3. **Description** テキストボックスに、問題または機能拡張のご要望に関する詳細を入力します。
4. **Reporter** テキストボックスに、お客様のお名前を入力します。
5. **Create** ボタンをクリックします。

これによりドキュメントに関するチケットが作成され、適切なドキュメントチームに転送されます。フィードバックをご提供いただきありがとうございました。